

セイヨウナシ「ラ・フランス」の 収穫適期は早まっている。

近年、温暖化の影響により、セイヨウナシ「ラ・フランス」の収穫時期が早まる傾向にあります。そこで福島県農業総合センター果樹研究所では、収穫適期の検証を行い、現行の収穫基準よりも早まっていることを明らかにしました。これを踏まえ、新たな収穫の目安を策定したので紹介します。

☆技術の概要

1. 平成 20～28 年産のセイヨウナシ「ラ・フランス」の収穫適期となる果実の状態は、地色指数が 3 程度 (図 1)、硬度が 11.0 lbs. 程度 (図 2)、デンプン指数が 3.0 程度 (図 3) で収穫適期に入っており、現行基準よりも早まっていた (表 1)。
2. 追熟後の果実の食味調査では、満開後 160～165 日頃に収穫した果実の食味評価が高くなりました (図 4)。
3. 追熟後の果肉褐変障害の発生は、満開後 170 日以降の収穫果に多く見られました (図 5)。
4. 以上のことから、新たな収穫の目安は生育日数 (満開後日数) が 160～165 日頃で、地色指数が 3 程度、硬度が 11 lbs. 程度、デンプン指数で 3～3.5 程度となります (表 1)。

表1 「ラ・フランス」収穫適期の現行基準及び新たな収穫の目安

	生育日数 (日)	地色 指数	硬度 (lbs.)	デンプン 指数
現行基準	165～175	2.5～3.0	11～12	1.5～2.0
新たな収穫の目安	160～165	3.0	11	3.0～3.5

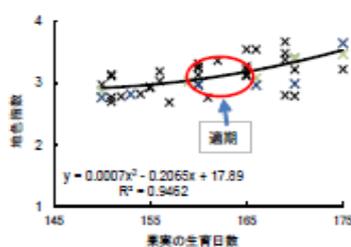


図1 成熟期の地色指数の推移

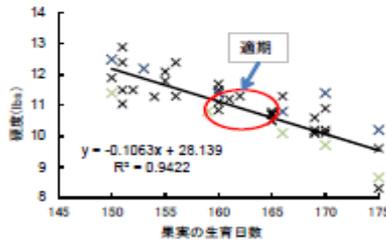


図2 成熟期の硬度の推移

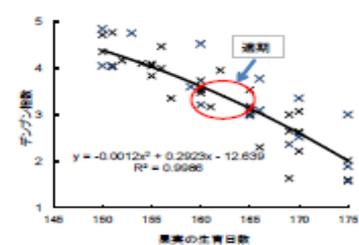


図3 成熟期のデンプン指数の推移

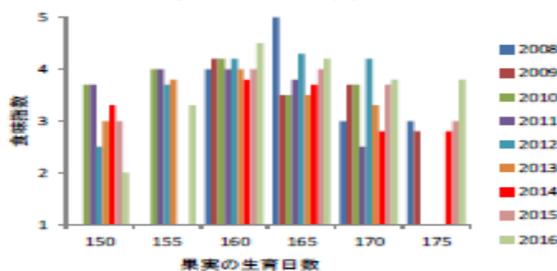


図4 追熟後の食味調査(1～5の5段階評価)

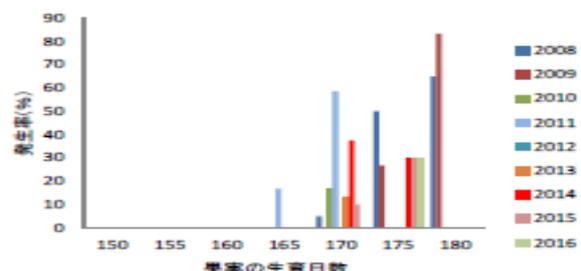


図5 追熟後の果肉褐変発生率

☆活用面での留意点

1. 追熟試験には収穫後 5℃で約 7 日間予冷し、約 15 日間追熟させた果実を用いています。
2. 8 月以降が低温で推移した場合は、現行の収穫基準を用いてください。
3. 本試験は福島県北部で平成 20～28 年の 9 か年実施しました。
4. 詳細は福島県農業総合センター果樹研究所栽培科 (024-542-4951) に問い合わせください。

(農研機構果樹茶業部門 企画管理部 果樹連携調整役 大崎 秀樹)